

霞南至健中学校

平成二十八年年度 第一回一般入学試験問題

(平成二十七年十二月二十日実施)

△B.一般型▽

国語

試験時間 四十五分

注意

- 一 この問題用紙は、「はじめ」の合図があるまで開いてはいけません。
 - 二 「はじめ」の合図があったら、最初に受験番号と氏名を、解答用紙に書きなさい。
 - 三 問題を読むときは、声を出してはいけません。
 - 四 答えは、すべて解答用紙に書きなさい。
 - 五 記号による解答は、特別の指示があるもののほかは、あてはまるものを一つ選び、その記号を答えなさい。
 - 六 記号以外の解答は、指示のとおりに答えなさい。
 - 七 字数制限のある問題では、句読点やかぎかっこなどの符号もすべて字数にふくめます。
- 試験中に携帯電話などの使用はできません。

1

次の文中の——線部の漢字はひらがなに、カタカナは漢字に直して書きなさい。

- ① 朝食を済すます。
- ② 新しい学説を唱うえる。
- ③ 典てん型的な誤りをおかす。
- ④ 著しよ名な作家の作品を読む。
- ⑤ タクシーをヒロろう。
- ⑥ 川にソそって走る。
- ⑦ 高所での作業はキケけんだ。
- ⑧ 旅行のジュンじゆんビをする。

2

次の各問いに答えなさい。

問一 次の(1)～(3)の熟語の読み方は、あとのどれにあてはまりますか。

それぞれ記号で答えなさい。

- (1) 受信
 - (2) 試合
 - (3) 底力
- ア 音読み+音読み イ 音読み+訓読み
ウ 訓読み+音読み エ 訓読み+訓読み

問二 次の(1)～(3)の漢字の↓でしめした部分は、何画目に書きますか。

それぞれ漢数字で答えなさい。

(1) 由
(2) 医
(3) 通

問三 次の(1)～(3)の慣用句の意味として適当なものを、あとからそれぞれ

を選び、記号で答えなさい。

- (1) えりを直す
 - (2) 息をのむ
 - (3) 油を売る
- ア むだ話などをして、時間をむだに費やす。
イ 思いがけないことにはっとする。
ウ 職業などがその人にしっくり合う。
エ 気を引きしめる。

問四 次の(1)～(3)の——線の敬語の使い方が正しければ○、まちがって

いれば×をそれぞれ答えなさい。

- (1) 今度わが家に参るときには、お電話を下さい。
- (2) 母がよろしくと申しておりました。
- (3) 先生が生徒の作品をごらんになる。

次の文章を読んで、あとの各問いに答えなさい。

先日、あるテレビ局の知人がつくったドキュメンタリーのビデオを、大学生男女三人と一緒に見ていました。大分県日田市の北にある小鹿田という小さな村の記録です。その村では、三百年前から小鹿田焼という皿や鉢や井をつくっているのです。十四軒の村のうち十軒が窯元で、その数は昔から減りも増えもしないそうです。

A、焼いている陶器も、三百年変わらないというのです。デザインもです。ずーっと生活雑器だけをつくって来た。高級品などというものは無い。①、などといわれると困ってしまう、と窯元の主人はいい

二十六歳になる息子さんが、いまは跡を継ぐための修行をしています。10「もっと若いときは、こんな村にいるのは嫌だと思ったこともあるけれど、いまは満足している」とインタビュにこたえています。

一緒に見た若い人達にとっても、都会がそれほど素晴らしいという時代ではありませんから、村で暮らす人生については、まったく疑問は出ませんでした。しかし、三百年デザインを変えず、高級化も目指さず、ただ伝統だけを守って生活雑器に徹している村の人々には、感嘆しながらも、どうしてそんなことが可能なのだろうか、という声があがりました。

村にいい土があり、技術があり、立派なのぼり窯がある。自分だったら、自分だからそのデザインを試みたくなってしまうのではないか。20 芸術家を目指さないまでも、いまの時代に合った売りやすい新製品をつくろうとしたら、多少高く売れる工夫をして一部にせよ高級化を目指し

たりしてしまうのではないか。ただ忠実に三百年前のデザインを守って
いられるだろうか、と。

若い人といわなくても、いまの日本人ならまあ自然な感想かもしれません。25

私たちの社会は、個性をのばすことを善として来ました。時代の変化に素早く対応することも善でした。金を儲けることについては、いままでもないでしょう。

それらすべてに関心のない人々を、うまく理解できなくても無理はな
いかもありません。30

B、その小鹿田村で、なまなかな青年が個性を出そうと、新しい
デザインの陶器を焼いても、おそらく三百年の伝統のある生活雑器の前
では、貧弱なものに見えてしまうでしょう。伝統というのは、再生産を
しているように見えて、多くの時代多くの個性のフィルターで濾過され
磨かれていくもので、余程の天才ならともかく、一個人の創意工夫くら
いでは、齒が立たない厚みを持っているのではないでしょう。か。

時代の求める便利さや流行に敏感に反応した陶器をつくったとしても、
それならもっと洗練された大量生産の陶器があるよ、というようなこと
になりかねません。仮にいまの時代に合って売れたにせよ、そのデザイ
ンの美しさが、伝統の生活雑器を越えることはむずかしいのではないで
しょうか？

しかし、多くの伝統のある生活雑器の窯が、時代に適応しようとして
新製品に走っていることも事実ですし、多くの窯の後継者が芸術を目指
して高級化に傾いているのも見聞きしています。安っぽい現代化、無残
に見苦しい高級化の例にも事欠きません。小鹿田村の人たちだって、お

金が要らないわけではないでしょうが、^③そんな事までして金を儲ける気はないというところでしょう。

その見識を支えているのは、十四軒だけの村の結びつきの固さでしょう。そういう共同体には共同体的なマイナスがないわけではないでしょうが、いまの時代の価値観や流行の生き方などにゆきふられずに、平安な日々を手に入れるには、小さくて強い共同体を必要とするのでしよう。なんだかんだって、^④ゆるぎなく生き方を守っているのは、やはり見事という他はありません。

つまり、この日本にだって、^⑤の発揮も目指さず、新しいものへの適応も考えず、都会に目もくれず、金銭にふり回されないで幸福感を手に入れている人がいるのです。そして自分の子供がそういう生き方を選んでないといけないか、と考えること、そのくらいの幅は、お互い、親なら持ちたいものではないでしょうか？ この世には、実にさまざまな価値観があり、それぞれで、多くの人々が幸福感を手に入れているのですから。

(山田太一)『親ができるのはほんの少しばかりのこと』より)

* 窯元II 陶器を焼いてつくっているところ。

* なまなかなII 中途半端な。

問一 [A]、[B]にあてはまることばの組み合わせとして最も適当

なものを、次から選び、記号で答えなさい。

- ア A つまり B たとえば
イ A として B しかし
ウ A また B あるいは
エ A でも B だから

問二 [①]にあてはまることばとして最も適当なものを、次から選び、記号で答えなさい。

- ア 安くないのか イ 割れないものはないのか
ウ 飽きることはないのか エ 高いのはないのか

問三 ——線②「そのデザインの美しさが、伝統の生活雑器を越えることとはむずかしい」とありますが、筆者がそう考えるのはなぜですか。それを説明した次の文の [] にあてはまることばを、**二十五字以内**で書きなさい。

伝統のデザインは、 [] だから。

問四 ——線③「そんな事」とはどのようなことですか。文章中から**十**八字でぬき出して書きなさい。

問五 ——線④「ゆるぎなく生き方を守っている」とありますが、この「生き方」とはどのような生き方ですか。それを説明した次の文の [] にあてはまることばを、文章中から**三十五**字で探し、はじめと終わりの**五**字をぬき出して書きなさい。

[] をつくっている人々の生き方。

問六 [⑤]にあてはまることばを、**漢字二字**で書きなさい。

次の文章を読んで、あとの各問いに答えなさい。

翌朝、母はいつになく上機嫌で朝食の用意をしていた。徹夜仕事をした母の目ははれぼったく赤かった。

「オサム、約束のユニフォームだよ」

母はにこやかに笑いながら、手にした黒い布地の物を拵げた。修は目をむいた。母の手には真っ黒な色の野球のユニフォームがつるざれていて。修は目を何度もこすった。たしかに夢にまで見たユニフォームだった。ただし、白地の布で作ったものではなく、黒地に白の線が入ったユニフォームだった。

「気に入ったかい？」

② 「う、うん」修はうなずいた。欲しかったのは白地のユニフォームだが、10ユニフォームに変わりはない。

「じいちゃんの紋付を仕立て直して作ったんだよ。母さんの裁縫のうでもまんざらじゃないね」

「いいな、オサム」後から起きて来た勉がにやにや笑いながらいった。

「母さんが作ってくれたユニフォームだからな、世界で一つしかないぞ。15それを着るときつとオサムも野球が上手くなるよ」

「さ、着て、着て」

修はランニングにパンツ姿になり、早速、黒のユニフォームを着こんだ。身体にぴったりしたユニフォームだった。胸には白い布地を切り抜いて作ったGのマークが縫いつけてあった。

「うん、似合う、似合う、修坊」

勉は笑いながらいった。母もおかしそうに目を細めながらうなずいた。

修は母の鏡台の前に立った。鏡に映る自分の姿は、たしかに似合っていた。だんだん自分でも気に入りはじめていた。

「これは何だ？」

修はユニフォームの背中に付いた白い紋を見つけた。母は笑いをかみ殺した。

「だからいったでしょ。紋付をつぶして作ったから、どうしても背中に紋がついているのよ」

「いいじゃないか、修坊。背番号の代わりだと思えば」勉は③しなから修の肩を叩いた。

「ドンマイ、ドンマイ」

「うん、ドンマイ、ドンマイ！」

母は目に涙をためて笑っていた。修は学校に黒のユニフォームを着て行った時の、みんなが驚く顔を想像していた。

黒のユニフォームを着た修は、教室に入るとたちまちみんなの人気者になった。男の子たちは、修の周りに集まり、さまざまな批評や感想を加えたが、修は気にならなかった。いち早く修の姿を見た広瀬先生が母の作ったユニフォームと知って誉めてくれたからだだった。女の子たちが自分のことをささやき合っているのも快かった。廊下ですれ違う上級生や先生たちも、みんな修を振り返り、何かと声をかける。修は得意満面だった。

午後の体操の時間は学級対抗のソフトボール試合だった。修はその日も正選手の人数が足りなかったので、レフトについた。修はユニフォームを着た分、身がひきしまり、上手くなった気がしたが、結果は散々だった。

その試合でレフトに飛んで来たフライは五球もあったが、いずれもボールを捕れなかった。バッターに立っても打てず、三振とピッチャーゴロのノーヒットに終わった。

バッターボックスに立った時に相手側から「黒バッタ」「黒バッタ」の野次が飛び、あがってしまったせいもある。広瀬先生がにこやかに励ましてくれたことだけが修には唯一の救いだった。

「ただいまッ」

ランドセルを上がり框に放り投げると、洗濯物をたたんでいる母が心配顔で修を迎えた。

「オサム、どうだった？ ユニフォーム」

「みんな、びっくりしてた。すごいって」

「よかった。馬鹿にされたんじゃないかと思って心配してたわ」

母は眉根を開いた。

「みんなにからかわれたら、母さんが出てってやるからね」

「そんなことなかったよ」

⑤ 修は「黒バッタ」とからかわれたことはいまと思っただ。せっかく夜なべして母が作ってくれたユニフォームだ。

「みんな、いったよ。かっこういいって。母ちゃんにいった、おれみたいな黒のユニフォーム作ってもらって」

「そうかい、そうかい。友だちはみんなそういってたかい」

母は顔をくしゃくしゃにし、目を細めた。修は嘘をつくのが少し後ろめたかったが、喜んでくれればいいやと思うのだった。

「おれ、テツオのところへ遊びに行ってくる」

「ああ、行っという。遅くなんないうちに帰るんだよ」

母はにこにこしながら、修の黒いユニフォーム姿に見入っていた。嘘をついて居心地が悪かった。修は一目散に外に走り出た。

修がテツオと家の周辺で探検ごっこをしている時、大きな画帳を抱えた広瀬先生がれんげ草畑の一本道をやって来るのが見えた。修とテツオは歓声をあげ、先生を迎えに農道まで走った。

修は先生の手を引っぱるようにして、家に連れて行った。

母はこざっぱりとした着物に着替えて、広瀬先生を迎えた。修は母と広瀬先生が話すのを脇にしゃがんで聞いていた。

「黒のユニフォームは大評判だったのですってね。オサムが自慢してました。同級の子たちがみんな黒のユニフォームを作りたいがるって」

⑥ 先生は何もいわず、修をかるくにらんだ。修は首をすくめた。母は紋付をユニフォームに直す苦心をひとしきり話していた。

(森詠『オサムの朝』より 一部表現を改めたところや省略がある)

* 紋付 家紋がついた礼装用の和服。

* 上がり框 玄関など、家の上がり口の縁に渡してある横木。

* 眉根を開いた 心配事がなくなつて、晴れやかな顔になった。

問一 —— 線①「徹夜仕事をした」とありますが、「徹夜仕事」とほぼ同じ意味のことばを、文章中から三字でぬき出して書きなさい。

問二 —— 線②「う、うん」修はうなずいた」とありますが、このときの修の気持ちとして最も適当なものを、次から選び、記号で答えなさい。

ア 悲しみ イ とまどい ウ 怒り エ 喜び

問三 ③ にあてはまる最も適切なことばを、文章中から四字でぬき出して書きなさい。

工 息子が嘘を言っているのにまったく気づいていない母親の様子を見て、母親に同情している。

問四 線④「広瀬先生」とありますが、広瀬先生はどのような先生だと考えられますか。最も適当なものを次から選び、記号で答えなさい。

- ア 普段はやさしいが、怒るとこわい先生。
- イ やさしく、生徒にしたわれている先生。
- ウ 厳しさの中に、やさしさがあふれている先生。
- エ やさしいが、生徒から軽く思われている先生。

問五 線⑤「修は『黒バツタ』とからかわれたことはいうまいと思っただ」とありますが、なぜいうまいと思ったのですか。二十字以内で書きなさい。

問六 線⑥「先生は何もいわず、修をかるくにらんだ」とありますが、このときの先生の気持ちとして最も適当なものを、次から選び、記号で答えなさい。

- ア 修が母親に嘘をついていることを知って驚き、どのような態度をとればいいのかまよっている。
- イ 修が母を思って嘘をついていることを知り、自分もその嘘に合わせるからと修に合図を送っている。
- ウ 母親に嘘をつくのは悪いと思いつながらも、母親を思いやる修の気持ちには理解をしめしている。